

Y13a 多層な参加者の交流促進を目的としたポスターセッションの実践と分析

玉澤春史，山下俊介，磯部洋明（京都大学）

科学コミュニケーションには研究者や市民，科学コミュニケーターなど，関わり方によって様々な参加者が存在するが，参加者間の相互交流・結びつきには役割などによって濃淡があり，結果として参加者自身，また参加者の役割の固定化につながり，新規性・積極性に歯止めがかかってしまう可能性がある．京都大学の宇宙総合学研究ユニットでは，2015年に実施したシンポジウムにおいて，それまでの講演とパネルディスカッションに加え，宇宙に関わる研究，教育，普及に関わる様々な個人や団体を並列に並べたポスターセッションを実施した．高校生から大学関係者，企業に至るまで同等に扱うことで，通常の活動では結びつきが薄い二者間にも交流を促す狙いであった．ポスター出展者と来場者の交流は好評だった一方，出展者同士の交流はもう少しあったという声もあり，主催者側のさらに積極的な仕掛けが必要であることが伺える．反省点を踏まえ，ポスターセッションは2016年の2月にも再び実施する予定である．本講演では実施と分析について，特に宇宙・天文に関する科学コミュニケーションに関する参加者層が互いに何を求めているかという観点から報告を行う．